

つくば 3E フォーラム会議に参加した感想

筑波大学生命環境科学研究科 環境バイオマス共生学専攻 稲葉 遊

私は今、筑波大学で、藻類を用いたバイオ燃料生産の研究をしている。その前提として、地球温暖化防止に興味があり、藻類由来のバイオ燃料を実用化することによって、CO2 排出量を下げることが夢だ。

CO2 排出量を削減するにあたって、再生可能エネルギーの技術発展もちろん大切であるが、それと同時に世の中の省エネも同様に重要である。その点、私は交通の研究をしているわけではないが、この 3E フォーラムを非常に楽しみにしていた。今回の 3E フォーラムの中で、一番心に残ったのは、十勝バスの社長である野村さんのお話である。

野村さんは、倒産しそうな十勝バスを立て直すため、さまざまな改革を行い、十勝バスを立て直した。さまざまな改革の中でも、改革の結果、運転手の顔に笑顔が戻った、という話が一番大事なことではないかと思った。

確かに、今まで自分が見てきたバスの運転手の中で、笑顔で接してくれた運転手はどのくらいいたのだろうか？多くの運転手はぶっきらぼうであり、無口であり、不親切ではなかったか？

バスの運転手は、他の公共交通機関、例えば電車の運転手よりも、お客との距離が近い。その分、運転手の教育というのが、非常に大事であり、運転手のイメージが、バスへのイメージに与える影響は大きい。この、今まで気づかれていなかった、盲点のような場所に野村さんは切り込んだのだ。

これは些細なことのようにであるが、運転手の変化によって、バスへの乗客が増えれば、CO2 の排出量も削減される。このような小さな革命が、バス業界でもなく、さまざまなところで起きれば、CO2 排出量はずっと下げられるのではないかと思った。

おそらく、他のバス会社で、運転手の改善が行われない理由は、特に乗客数で会社として困っていないからだ。さらにお客さんに使ってもらうにはどうすればいいか？という野望を、バス会社にもってほしいと思った。